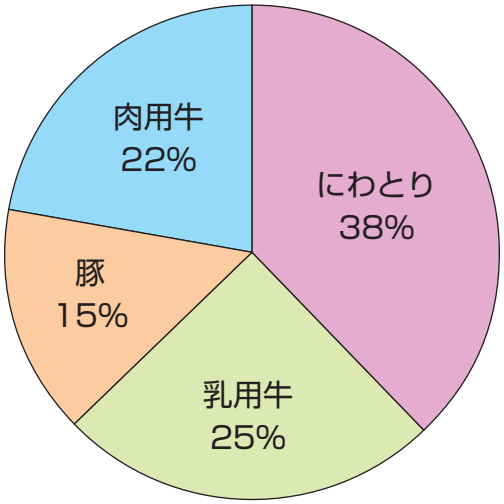
6　畜産のさかんなところ

①鳥取県の畜産の特色

昔にくらべて，日本人の食生活が変化し，肉や乳製品をたくさん食べるようになりました。

それにつれて，県内各地で牛や豚やにわとりなどの家畜が育てられ，鳥取県の畜産がさかんになってきました。

鳥取県は，むかしから「因伯牛」に代表される和牛の産地として有名でした。しかし，外国から安い牛肉が輸入されるようになったことから，はん売に力を入れなければいけなくなりました。



鳥取県の畜産種類別産出額の割合
[2022年/農林水産省]

そのため，鳥取和牛肉は外国の牛肉とちがって，やわらかくておいしいことをわかってもらい，たくさん買ってもらえるように，畜産農家の人たちは牛を大切に育てています。



肉用牛「因伯牛」



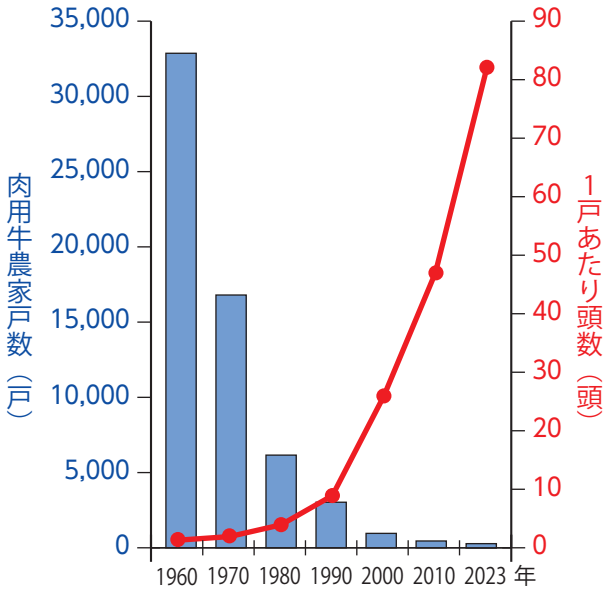
豚「大山ルビー」



にわとり「鳥取地どりピヨ」

鳥取県では，牛を飼っている農家の戸数は年々へってきていますが，一戸あたりの牛を飼う頭数はふえてきています。これは，人をやとったり，便利な機械ができたことで，たくさんの牛を飼う農家がふえてきたからです。

これからの畜産農家の人たちは，たくさんの牛を飼っていても，おいしい肉になるように大切に育てていかなければいけません。



鳥取県の肉用牛農家の戸数と一戸あたりの頭数の変化
［農林水産省］

「地元の牧草をエサに使って安心・安全な牛乳を!!」

近年，外国から輸入したエサではなく，地元でつくったトウモロコシや米などをエサに使う方式に取り組んでいます。

県内では，乳牛を飼っている農家（らく農家）が中心となってエサを生産する組合（コントラクター）をつくり，大型機械を使ってトウモロコシを一度にしゅうかくしています。この取り組みにより，地元でつくられた品質のよいエサを利用でき，安心・安全なおいしい牛乳が家庭や学校給食にとどけられています。



エサ用トウモロコシのしゅうかく

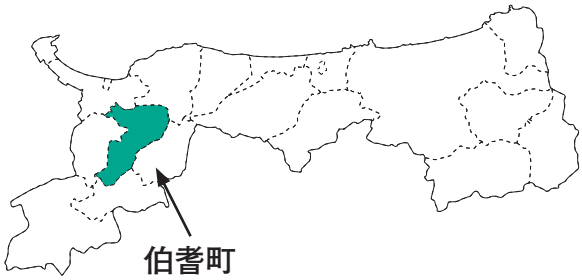
②クローズアップ！畜産

和牛農家　伯耆町の田中さん

伯耆町の田中裕之さんは，和牛を飼育している畜産農家です。２００６年（平成１８年）に農業を始めてから，少しずつ牛舎を大きくし，今では４０頭の母牛を飼育しています。

田中さんは，産まれた子牛を９カ月育ててから市場に出荷しています。

さらに，妊娠した母牛を，春から秋には田畑や山林に放し（放牧），自然の中でのびのびと飼う方式に取り組んでいます。





ゆったりと草を食べる放牧牛たち

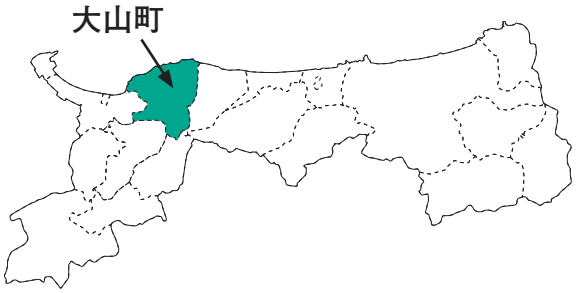
田中さんの話

放牧した母牛はしっかり運動して元気な子牛を産みます。その母牛から産まれた子牛が健康に育つように，体調やエサの品質に気をつけて大切に飼育しています。



田中さん一家

らく農の村　大山香取地区



大山のすそ野にある香取地区は，夏はすずしく，草地も広く，らく農がさかんなところです。

６戸の農家が，約９００頭の乳牛を飼っており，自然を大切にしながら，おいしい牛乳づくりをめざしています。

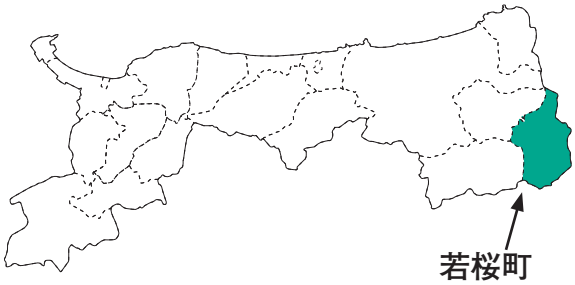


大山での乳牛の放牧

養豚農家　若桜町の吉田さん

若桜町で養豚をいとなんでいる吉田篤史さんは，妻の香織さんや家族と協力しながら，母豚を約５０頭飼い，出荷される豚を１年間で約１，１００頭生産しています。

農場で生産された豚の肉は，吉田さんのお店で，食肉やコロッケなどの商品として，はん売しています。



吉田さんの話

私たちの豚肉をおいしいと喜んで食べてもらえることが，なによりうれしいです。豚たちが元気に育つよう，愛情いっぱいに毎日手をかけています。みなさんが元気になっていただくように，栄養たっぷりの豚肉をおとどけしたいです。



吉田さん夫妻